



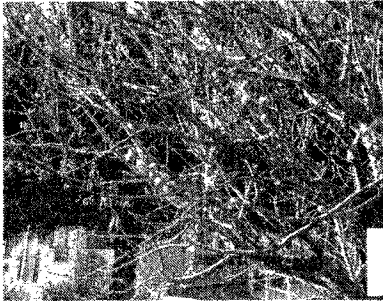
上小小だより

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町 1337-1

HP <https://kamiko-e.saitama-city.ed.jp/> TEL:048-644-6251

教育目標

- ◎心豊かな子
- ◎進んで学ぶ子
- ◎健康な子



正門横の白梅はもうすぐ…

春告草(はるつけぐさ)

校長 大島 恵美

大寒を過ぎたというのにまだまだ寒い日が続いています。そんな中、1年生が植えたチューリップの芽が凍える土の中から顔を出している姿は、私たちの凍えて丸まった背中をそっと伸ばしてくれるように感じられます。もう数日もすると、豆まきの声が聞こえてくる節分を迎え、その翌日からは暦の上では春の到来です。

節分とは、言葉の通り、季節の分かれ目を表す行事です。冬と春を分けるこの時期に行う豆まきの風習は、とても大切な年中行事の一つです。もちろん季節には、春、夏、秋、冬があるように、以前はそれぞれの季節と季節の間に行っていた行事でしたが、今は節分と言うと「2月」という位に、立春の前に行う風習だけが残りました。暗く寒い冬にあって、私たちの祖先が春の訪れをいかに心待ちにしていたかがうかがえます。昔は、鬼が嫌う柵の枝に焼いたイワシの頭を指し、鬼(邪気)が入ってくるとされる門や入口に貼り付け、鬼を追い払うために煎った大豆をまいて、家から鬼(邪気)を追い払い『家族全員が、病気にならずに、元気なこと』を願いました。今は、豆まきと、その年の恵方を向いて無言で太巻き(恵方巻)を食べることが人気のようです。

そして、この寒い季節に可憐な花を咲かせているのが「梅」の木です。我が国を代表とする花と言えば「桜」を思い浮かべる方が多いかと思いますが、古くは「梅」がより親しまれていたといわれています。日本に現存する最古の和歌集である万葉集では「梅」について100首以上詠まれており、植物の中では「萩」の次に多いそうです。凍えるような北風に揺られている枝を見ると、花ごと落ちてしまうのではないかと思います。心配になります。

その梅の木は、春がまだ遠いという季節に雪中に早々とつぼみを膨らませます。そして、寒さに耐えた結果として、ほかのどの花よりも早く春を感じさせてくれます。

「雪に耐えて梅花麗し」という言葉がありますが、これは、私たち人間が成長する過程でも同じようなことが言えるのではないのでしょうか。子どもたちは、様々な場面で多くの経験を積んでいきます。しかし、その経験は楽しい事ばかりではありません。時には、辛いことを我慢したり悔しい思いをしたりすることがあります。梅の花が厳しい冬を経験するように、一つひとつ経験を積み重ね、困難に立ち向かおうとする努力を重ねることで、少しずつしっかりとした芽を出し、つぼみをふくらませ、良い香りの美しい花を咲かせるのです。そういった力を私たち大人が協力し合い、ときには温かく、ときには厳しく見守りながら、一人一人を大切に育んでいきたいと考えています。

梅の木は「春告草(はるつけぐさ)」とも言われています。立春を迎え暖かくなり、かわいらしい花が咲き香る季節が待ち遠しいです。